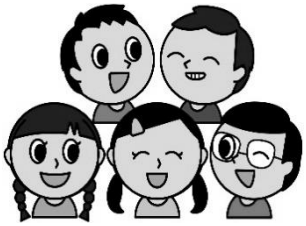
そよ風通信

NO.171
令和6年6月発行
大洲子育てサポート　そよ風



主張には理由がある

子育てをしていると、大人になった私達には思いもつかない子どもの言動に出合うことがあります。５，６年前になるでしょうか。

会社員として働きながら漫画やイラストを描いておられる「あおむろ ひろゆき」氏の新聞記事を目にし、ほほえましく、心温かくなったことがありました。

その文章を紹介します。

一見、突拍子もないと思ってしまう子供たちの言動。

それらに無意味なものはなく、必ず何かしらの理由があると思って接しています。

いつだったか、朝食の時。あまり時間がなかったので「今日はパパが塗るね」と言い、トーストにバターを塗り、次にいちごジャムをと思ったら、３歳の娘が怒り出したことがありました。

大好きなジャムバターのトーストなのに、「なんでそんなに怒るの？」と聞いても、ずっと怒っています。

仕方なくまたトーストを焼いて「何を塗ろうか？」と聞くと「まずジャムを塗って、それからバターを塗るの」と言うんです。

えっ、それさっきやったよ…と思っていたら、「その順番で塗るとね、パンがきれいなピンク色になるの。ほら、きれいでしょ」

頭をパーンとたたかれた気分でした。子供だけが持つ柔らかな感性。それを知らぬうちに今まで否定してしまっていたのではないかと反省しました。

以来、何かあるたびに理由を聞くようにしています。これがなかなか根気の必要なことではあるのですが…。

ある時は、上下ボーダーの服を着て出かけると言って聞きません。かわいいお洋服をあれやこれやと出してもダメ。

せめてズボンだけでも無地のものを…と思ってもダメ。

理由を聞くと「シマウマだから」…そういえば昨日の夜、一緒に動物図鑑を読んだのでした。

「シマウマが好きだったね、よし！」と結局その日はシマウマのまま出かけました。

今ではもう、何かあるごとに理由を尋ねることが楽しみになっています。

子供の見ている世界はファンタジーに満ちています。その世界が、年齢を重ねていくうちに現実の世界に飲み込まれてしまっているのではないでしょうか。

「それはどうして？」と尋ねる日々を過ごしたいものです。

せっかく私たちは、この夢に満ちた世界の傍らで暮らしているのですから。

引用資料：「パパと雨のち晴れの子どもたち」